

令和4年度 第7回
希望郷いわてモニターアンケート

ひとにやさしいまちづくりに関する意識調査結果

令和4年12月
岩手県保健福祉部地域福祉課

ひとにやさしいまちづくりに関するアンケートの結果について

I アンケートの趣旨

県では、「すべての人が個人として尊重され、自らの意思に基づき自由に行動し、あらゆる分野の活動に参加する機会が確保される地域社会の形成」を目指して、平成7年に「ひとにやさしいまちづくり条例」を制定し、誰もが利用しやすい建物、交通機関等の整備の促進や県民の方々に対するひとにやさしいまちづくりについての普及啓発を進めてきたところです。

本調査は、今後の県が進めるひとにやさしいまちづくりに関する施策の参考とするために実施しました。

II 調査実施期間

令和4年10月21日(金) ～ 同年11月4日(金)

III 調査方法

調査紙郵送及びインターネット

IV 調査対象

令和4、5年度希望郷いわてモニター 200名

V 回答者数

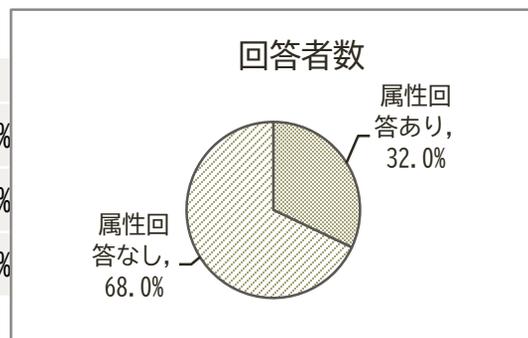
169名

VI 回答率

84.5%

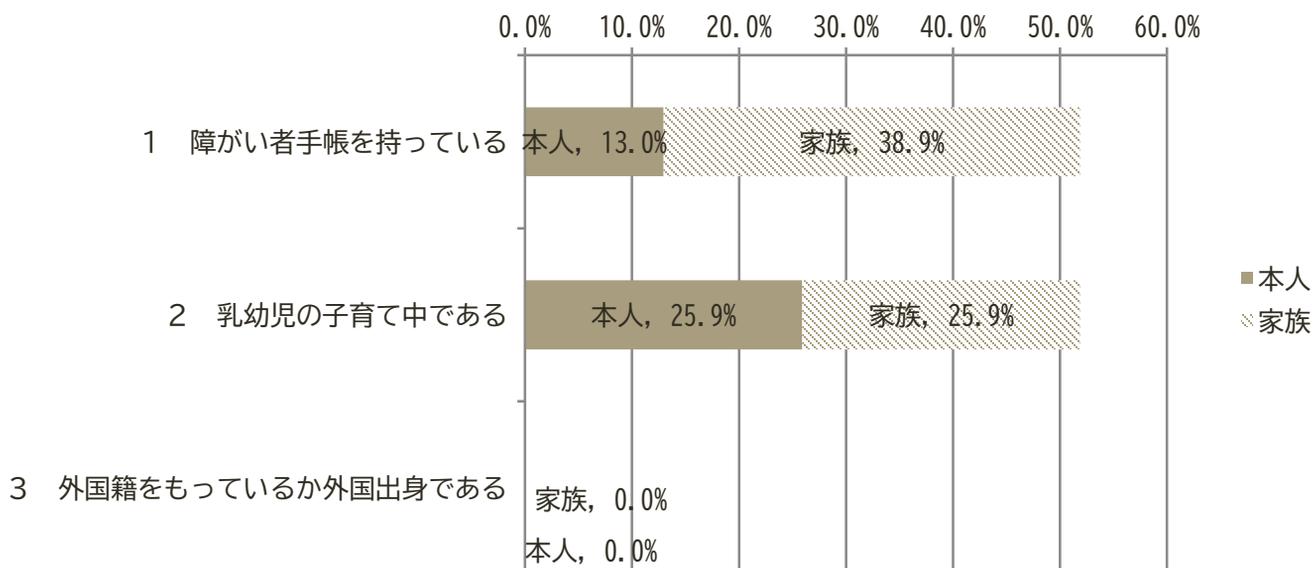
回答者の属性

	回答者数	比率
属性回答あり	54	32.0%
属性回答なし	115	68.0%
合計	169	100.0%



<属性の内訳> (重複あり)

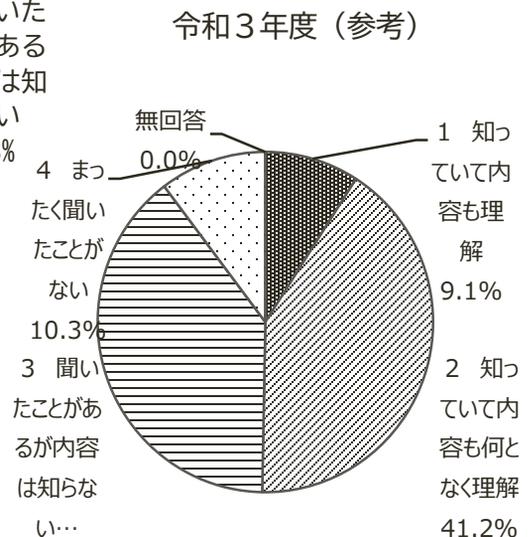
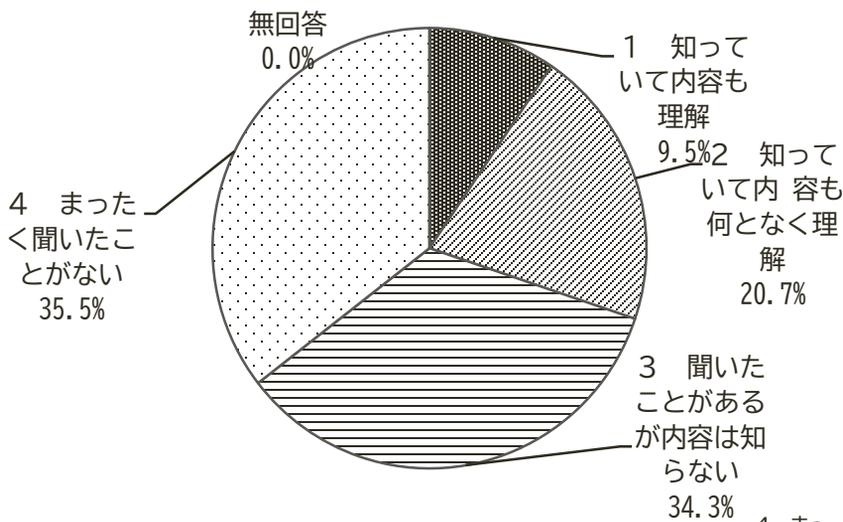
	本人		家族		計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
1 障がい者手帳を持っている	7	13.0%	21	38.9%	28	51.9%
2 乳幼児の子育て中である	14	25.9%	14	25.9%	28	51.9%
3 外国籍を持っているか外国出身である	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	21	38.9%	35	64.8%	—	—



問1

県の「ひとにやさしいまちづくり条例」や「ひとにやさしいまちづくり推進指針」について、知っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和4年度		令和3年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 知っていて内容も理解している	16	9.5%	15	9.1%
2 知っていて内容も何となく理解している	35	20.7%	68	41.2%
3 聞いたことがあるが内容は知らない	58	34.3%	65	39.4%
4 全く聞いたことがない	60	35.5%	17	10.3%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
合計	169		165	



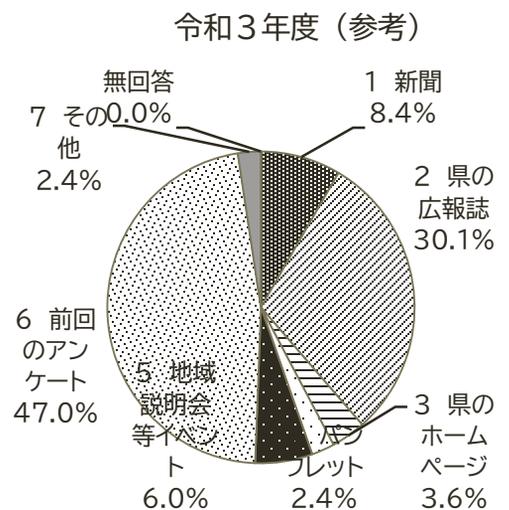
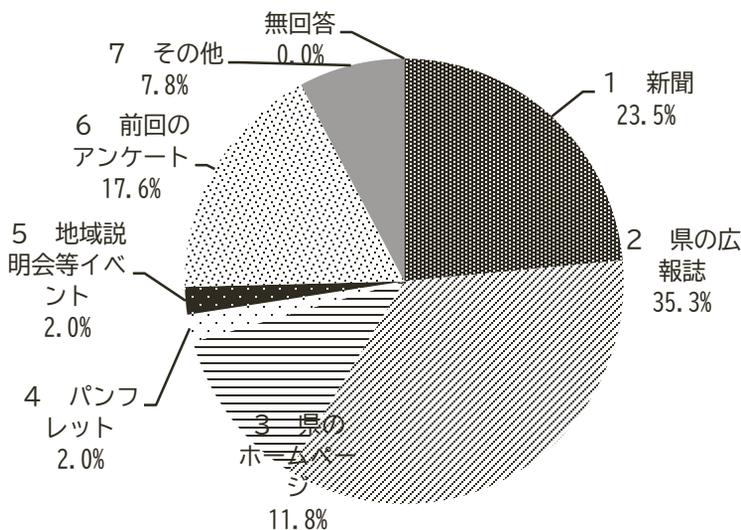
【調査結果】

ひとにやさしいまちづくり条例や同推進指針について知っていて内容も理解している方（「何となく理解している」も含む。）は30.2%となり、令和3年度と比較し、20.1%減少した。

問2

問1で①又は②を選択された方にお聞きします。「ひとにやさしいまちづくり条例」や「ひとにやさしいまちづくり推進指針」について知ったきっかけは何ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和4年度		令和3年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 新聞	12	23.5%	7	8.4%
2 県の広報誌	18	35.3%	25	30.1%
3 県のホームページ	6	11.8%	3	3.6%
4 パンフレット	1	2.0%	2	2.4%
5 地域説明会等イベント	1	2.0%	5	6.0%
6 前回のアンケート	9	17.6%	39	47.0%
7 その他	4	7.8%	2	2.4%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
合計	51		83	



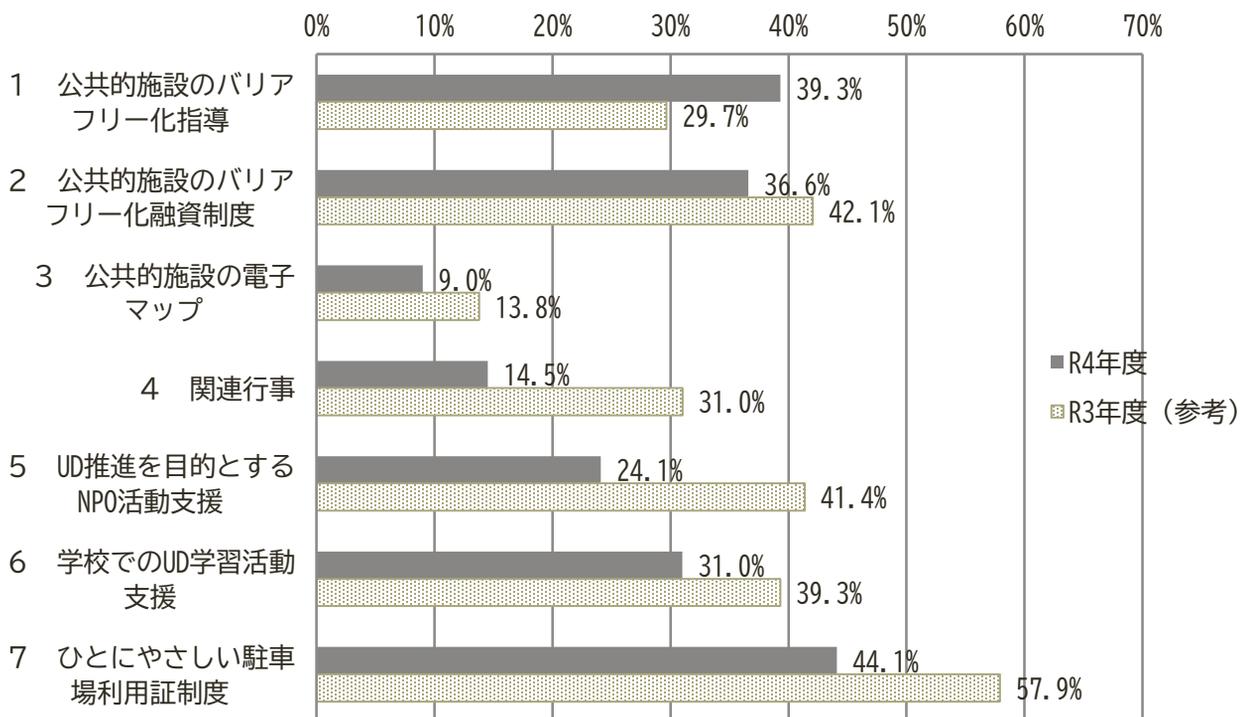
【調査結果】

ひとにやさしいまちづくり条例や同推進指針を知ったきっかけとして、県の広報誌と回答した方の割合が多く、今後も普及啓発を継続する必要がある。

問3

県では、前記の条例に基づき、以下の事業を展開していますが、見たり聞いたりしたことがあるもの、利用したことがあるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和4年度		令和3年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 公共的施設のバリアフリー化指導	57	39.3%	43	26.1%
2 公共的施設のバリアフリー化融資制度	53	36.6%	61	37.0%
3 公共的施設の電子マップ	13	9.0%	20	12.1%
4 関連行事の開催	21	14.5%	45	27.3%
5 ユニバーサルデザイン推進を目的とするNPO活動支援	35	24.1%	60	36.4%
6 学校でのユニバーサルデザイン学習活動支援	45	31.0%	57	34.5%
7 ひとにやさしい駐車場利用証制度 (回答者実数計)	64	44.1%	84	50.9%
	145		165	



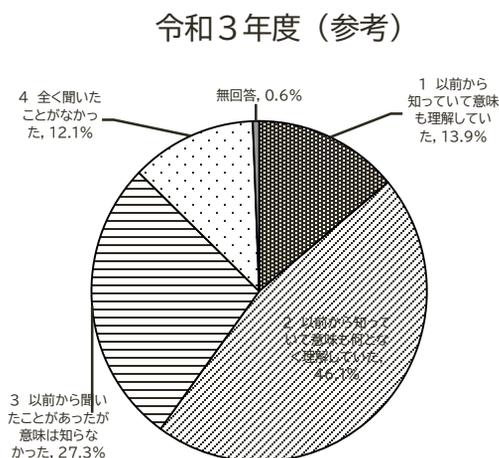
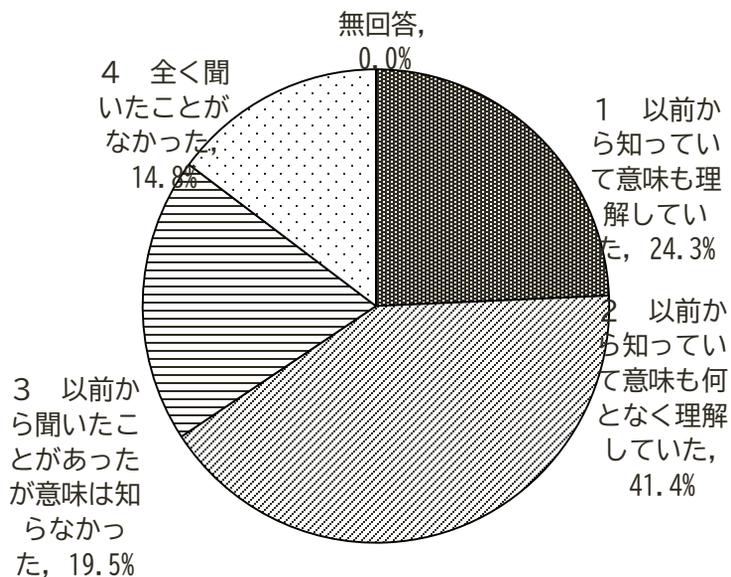
【調査結果】

平成22年度から取り組んでいる「ひとにやさしい駐車場利用証制度」の認知度が44.1%と最も高く、次いで、「公共的施設のバリアフリー化指導」が39.3%となっている。

問4

「ユニバーサルデザイン」について、本アンケートに御協力いただく前は、どの程度知っていましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和4年度		令和3年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 以前から知っていて意味も理解していた	41	24.3%	23	13.9%
2 以前から知っていて意味も何となく理解していた	70	41.4%	76	46.1%
3 以前から聞いたことがあったが意味は知らなかった	33	19.5%	45	27.3%
4 全く聞いたことがなかった	25	14.8%	20	12.1%
無回答	0	0.0%	1	0.6%
合計	169		165	



【調査結果】

「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っていて意味も理解している方（「何となく理解」も含む。）の割合は65.7%となり、令和3年度と比較して、5.7%増加した。

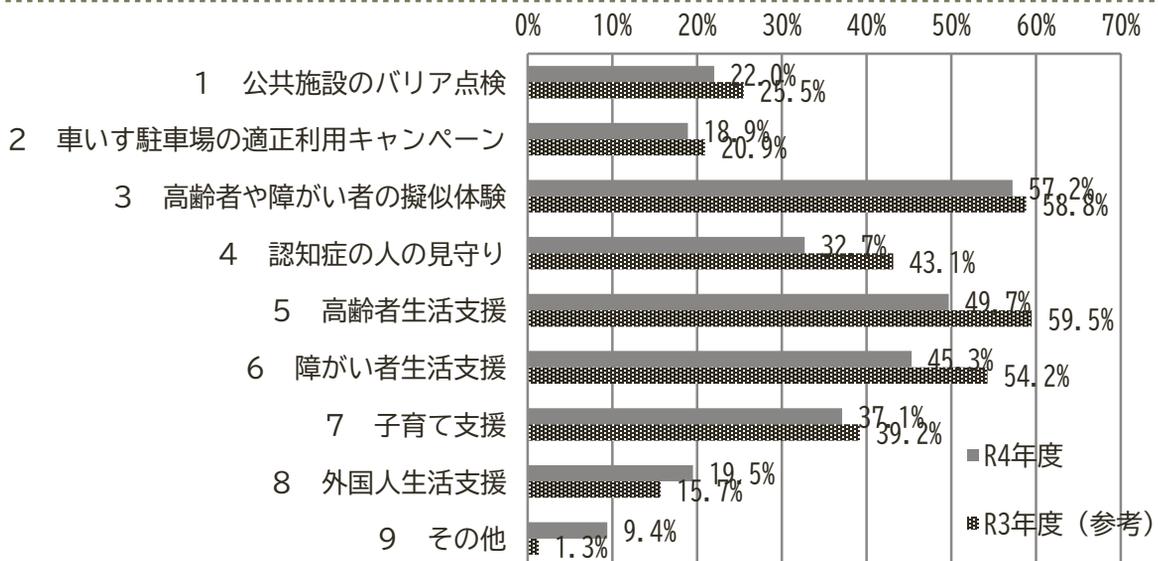
問5

以下の活動やその活動に取り組む民間団体・グループを見たり聞いたり、実際に参加したことがありますか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和4年度		令和3年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 公共施設のバリア点検	35	22.0%	39	25.5%
2 車椅子駐車場の適正利用キャンペーン	30	18.9%	32	20.9%
3 高齢者や障がい者の疑似体験	91	57.2%	90	58.8%
4 認知症の人の見守り	52	32.7%	66	43.1%
5 高齢者生活支援	79	49.7%	91	59.5%
6 障がい者生活支援	72	45.3%	83	54.2%
7 子育て支援	59	37.1%	60	39.2%
8 外国人生活支援	31	19.5%	24	15.7%
9 その他	15	9.4%	2	1.3%
（回答者実数計）	159		153	

< 9 その他の内容 >

- 障がい者のスポーツ活動の支援 スマイリーズ
- B型支援事業所に農福連携のお仕事を依頼している。
- 一戸町立奥中山中学校文化祭の発表でみた。
- 乳幼児等への読み聞かせ活動



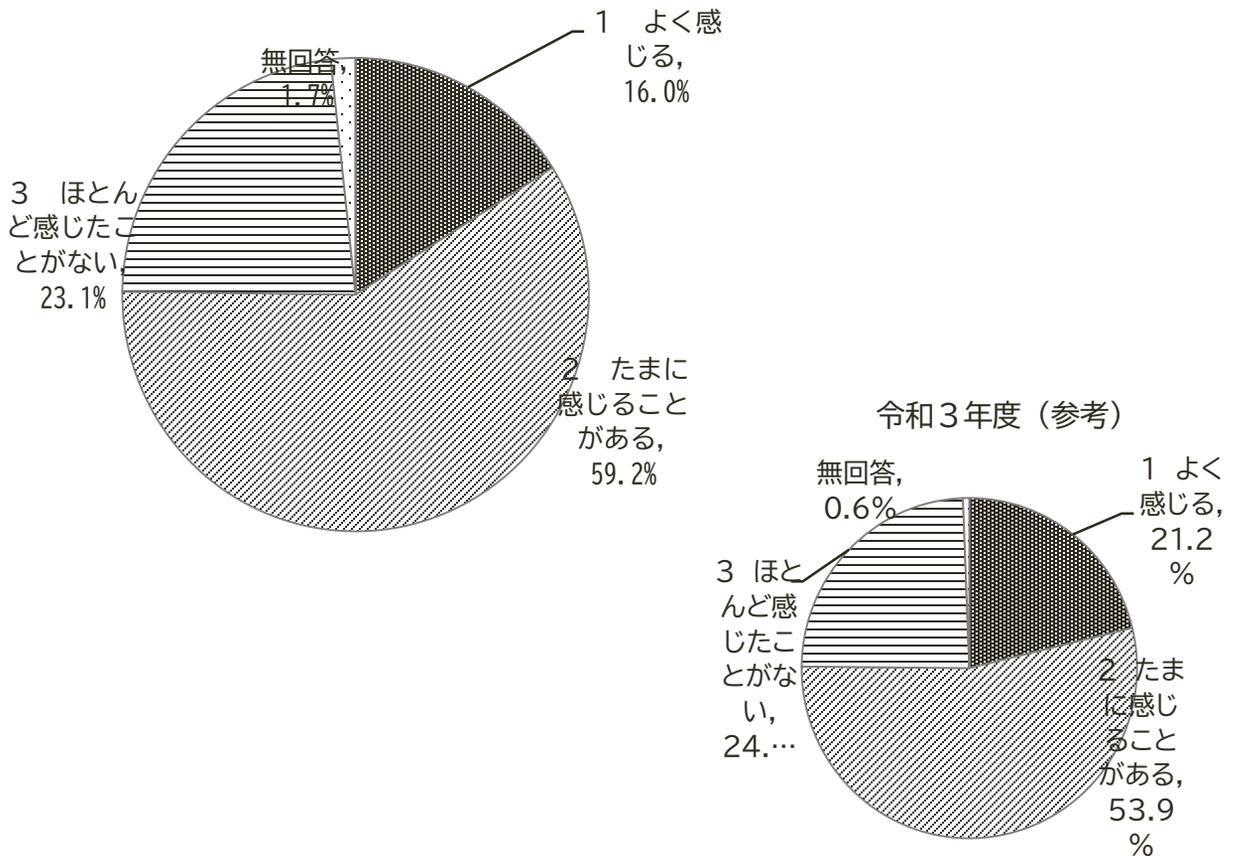
【調査結果】

見たり聞いたり、参加したことがある割合が多いのは、「高齢者や障がい者の疑似体験」、「高齢者生活支援」、「障がい者生活支援」となっている。

問6

まちの中の「ハード」（公共的施設、道路など）を利用又は移動するときにはバリア（障壁）を感じることはありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和4年度		令和3年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 よく感じる	27	16.0%	35	21.2%
2 たまに感じることもある	100	59.2%	89	53.9%
3 ほとんど感じたことがない	39	23.1%	40	24.2%
無回答	3	1.7%	1	0.6%
合計	169		165	



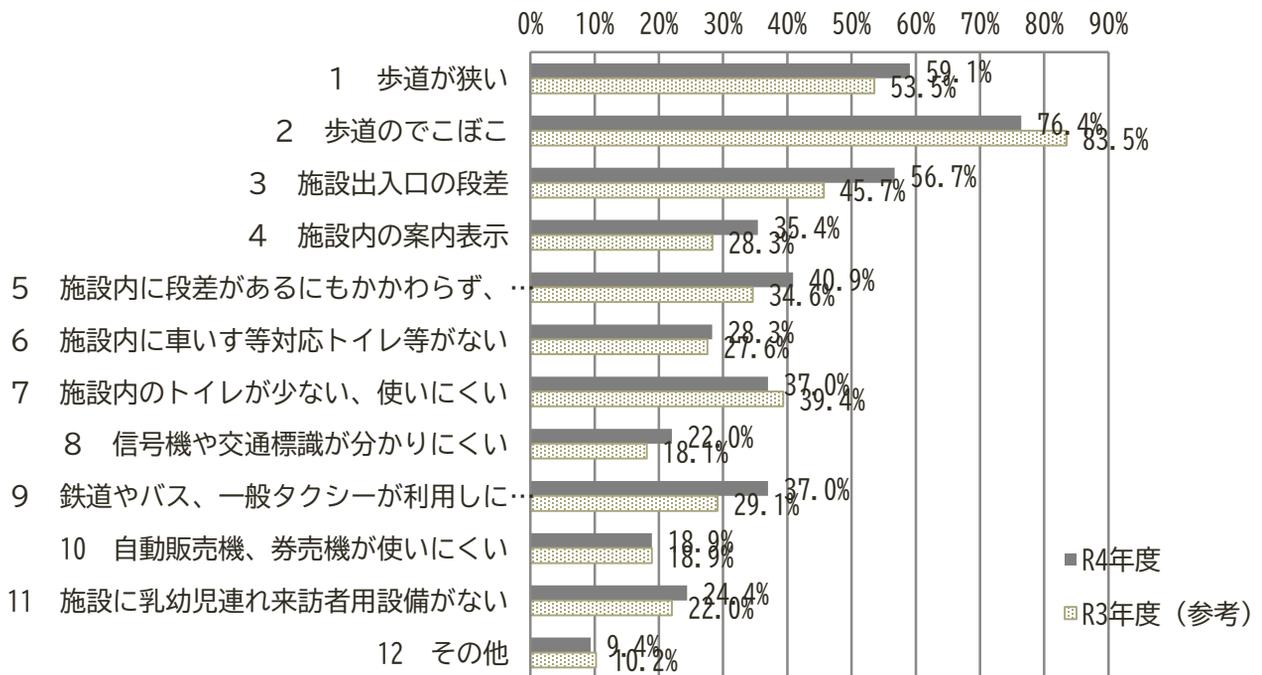
【調査結果】

「よく感じる」「たまに感じることもある」と回答した方の割合は、75.2%となり、令和3年度と比較して0.1%減少した。

問7

問6で①又は②を選択された方にお聞きします。バリア（障壁）を感じるのはどのようなことですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和4年度		令和3年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 歩道が狭い	75	59.1%	68	54.8%
2 歩道のでこぼこ	97	76.4%	106	85.5%
3 施設出入口の段差	72	56.7%	58	46.8%
4 施設内の案内表示	45	35.4%	36	29.0%
5 施設内に段差があるにもかかわらず、スロープ等がない	52	40.9%	44	35.5%
6 施設内に車椅子等対応トイレ等がない	36	28.3%	35	28.2%
7 施設内のトイレが少ない、使いにくい	47	37.0%	50	40.3%
8 信号機や交通標識が分かりにくい	28	22.0%	23	18.5%
9 鉄道やバス、一般タクシーが利用しにくい	47	37.0%	37	29.8%
10 自動販売機、券売機が使いにくい	24	18.9%	24	19.4%
11 施設に乳幼児連れ来訪者用設備がない	31	24.4%	28	22.6%
12 その他	12	9.4%	13	10.5%
（回答者実数計）	127		124	



【調査結果】

歩道（狭い、でこぼこ）にバリアを感じると回答した方が多く、歩道のでこぼこについては、76.4%の方がバリアと感じている。

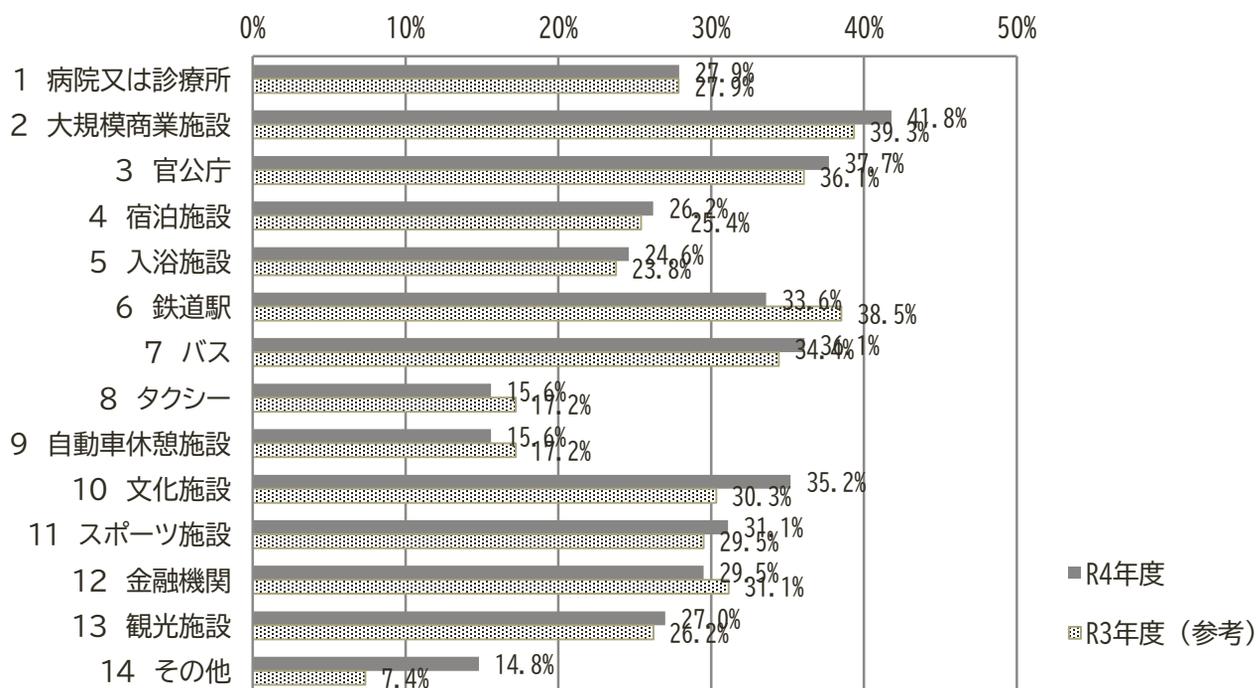
<12その他の内容>

- 2階以上の建物でエレベーター等のない施設が多い
- ほとんどが増設で、不便な場所で、車椅子には狭くて利用されていない。
- 建築物等の「はじ」が角ばっていて、頭などをぶつけやすい箇所がみられる。
丸みをつけるべきだ。
- 奥州市役所のWC洋式とバリアフリー障害者用のWC設置！！
- 街にベンチが少ない。
- 九戸城跡など、高齢者で足が不自由になると桜も見に行けない。年をとると足が不自由になり、見に行けなくても行けず、とても気の毒に思う。

問8

問6で①又は②を選択された方にお聞きします。バリア（障壁）を感じたことのある施設等を全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和4年度		令和3年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 病院又は診療所	34	27.9%	34	27.4%
2 大規模商業施設	51	41.8%	48	38.7%
3 官公庁	46	37.7%	44	35.5%
4 宿泊施設	32	26.2%	31	25.0%
5 入浴施設	30	24.6%	29	23.4%
6 鉄道駅	41	33.6%	47	37.9%
7 バス	44	36.1%	42	33.9%
8 タクシー	19	15.6%	21	16.9%
9 自動車休憩施設	19	15.6%	21	16.9%
10 文化施設	43	35.2%	37	29.8%
11 スポーツ施設	38	31.1%	36	29.0%
12 金融機関	36	29.5%	38	30.6%
13 観光施設	33	27.0%	32	25.8%
14 その他	18	14.8%	9	7.3%
(回答者実数計)	122		124	



【調査結果】

大規模商業施設、官公庁、バスの順に、バリアを感じると回答した方の割合が多い。

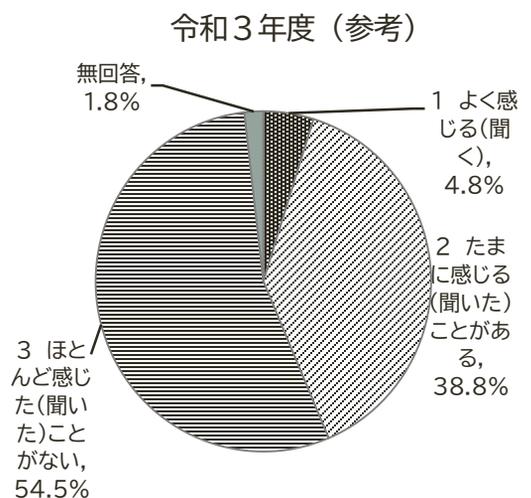
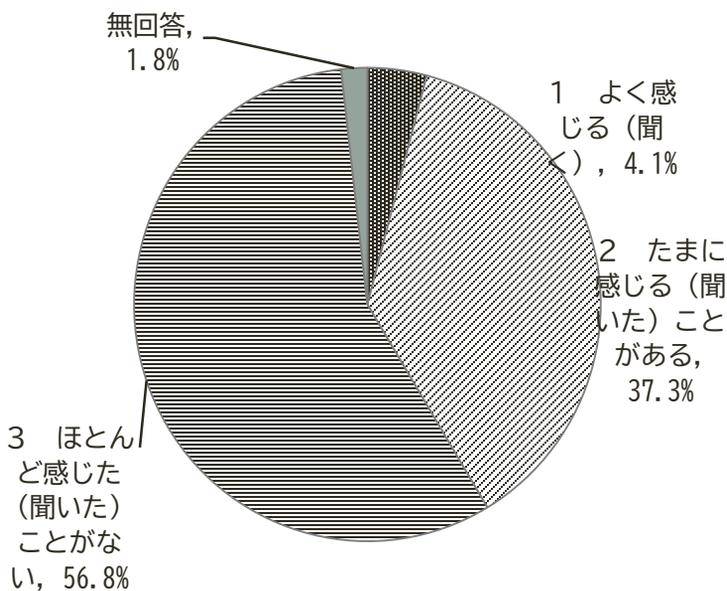
<14その他の内容>

- 横断歩道を渡った時の段差で、高齢者の押し車が上りづらい。
- 一般的な体育館では車椅子を使用した競技ができません。
- 県民会館のエレベーターにいくまでがたいへんと数が少ない、市民文化ホールもどこにあるかわからない。表示をもう少しわかりやすいように。
- 学校
- 歩道、道路
- 障害者用のトイレはあるのだが、車椅子に乗ったままドアノブが握れなくて苦労していた人を見かけた。ドアノブの位置は適正か？の確認も必要だと思った
- 地区公民館など2階まで階段しかない
- 歩道に物が置いてあったり自転車が置いてあったりして、視覚障がい者の方の歩行に危険が伴う
- 健常者の為具体的案件は理解できないが、全てに程度の差はあると思う。
- 道路の路面に穴があいている箇所があり、自転車を利用するとき危ない。
- 古い施設は通路がせまいので、あるきづらい
- 病院や銀行で「～さん」と名前を呼んで相手に来てもらうが、聴覚障がいの方は困るのではないかと。また、車椅子の方に受付の位置が高いのではないかと。

問9

公共的施設の「ソフト」の対応（従業員による車椅子用トイレやスロープ等バリアフリー設備の適切な管理、車椅子の適切な取扱い等介助の技術、言語による意思疎通が困難な方に対する適切な応対等）で不便さや不満を感じたこと、あるいは身近な方から不便さや不満を聞いたことはありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和4年度		令和3年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 よく感じる（聞く）	7	4.1%	8	4.8%
2 たまに感じる（聞いた）ことがある	63	37.3%	64	38.8%
3 ほとんど感じた（聞いた）ことがない	96	56.8%	90	54.5%
無回答	3	1.8%	3	1.8%
合計	169		165	



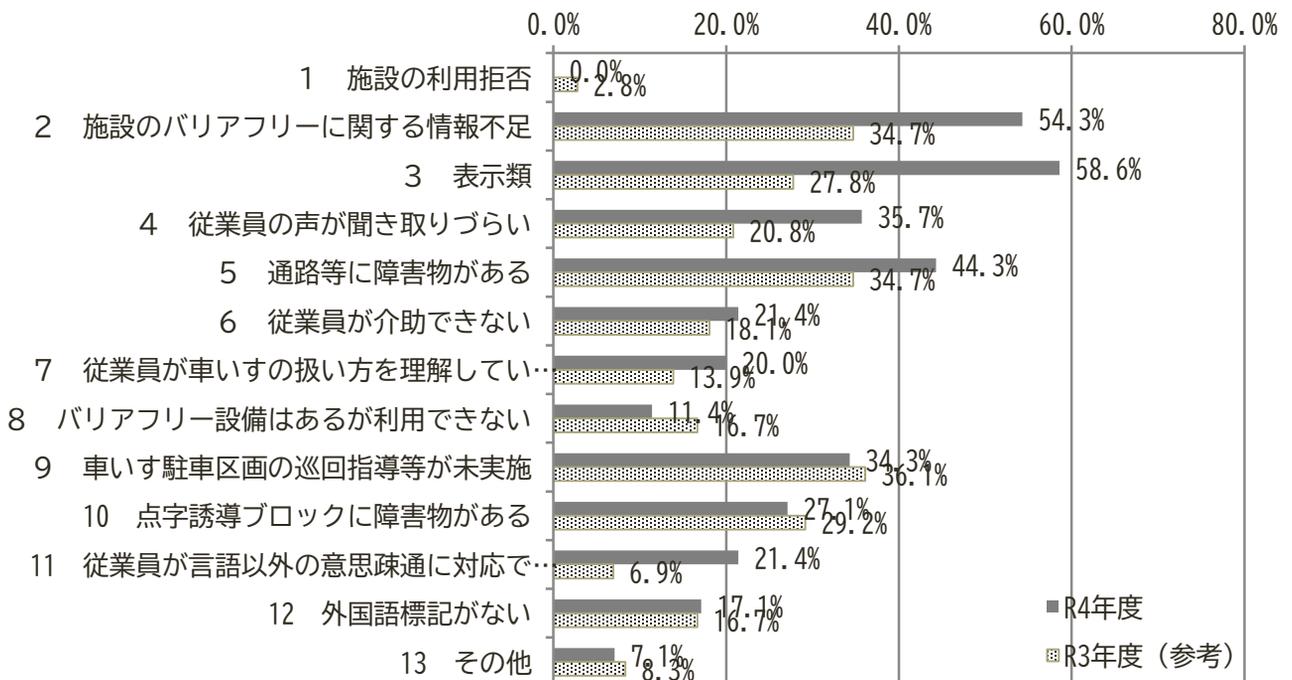
【調査結果】

「よく感じる（聞く）」、「たまに感じる（聞いた）ことがある」と回答した方の割合が、41.4%となり、令和3年度と比較して、2.2%減少した。

問10

問9で①又は②を選択された方にお聞きします。「ソフト」の対応に不便さや不満を感じた（身近な方から聞いた）ことはどのようなことですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和4年度		令和3年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 施設の利用拒否	0	0.0%	2	2.8%
2 施設のバリアフリーに関する情報不足	38	54.3%	25	34.7%
3 表示類が見づらい	41	58.6%	20	27.8%
4 従業員の声が聞き取りづらい	25	35.7%	15	20.8%
5 通路等に障害物がある	31	44.3%	25	34.7%
6 従業員が介助できない	15	21.4%	13	18.1%
7 従業員が車椅子の扱い方を理解していない	14	20.0%	10	13.9%
8 バリアフリー設備はあるが利用できない	8	11.4%	12	16.7%
9 車椅子駐車区画の巡回指導等が未実施	24	34.3%	26	36.1%
10 点字誘導ブロックに障害物がある	19	27.1%	21	29.2%
11 従業員が言語以外の意思疎通に対応できない	15	21.4%	5	6.9%
12 外国語標記がない	12	17.1%	12	16.7%
13 その他	5	7.1%	6	8.3%
(回答者実数計)	70		72	



【調査結果】

「表示類が見づらい」、「施設のバリアフリーに関する情報不足」、「通路等に障害物がある」と回答した方の割合が多い。

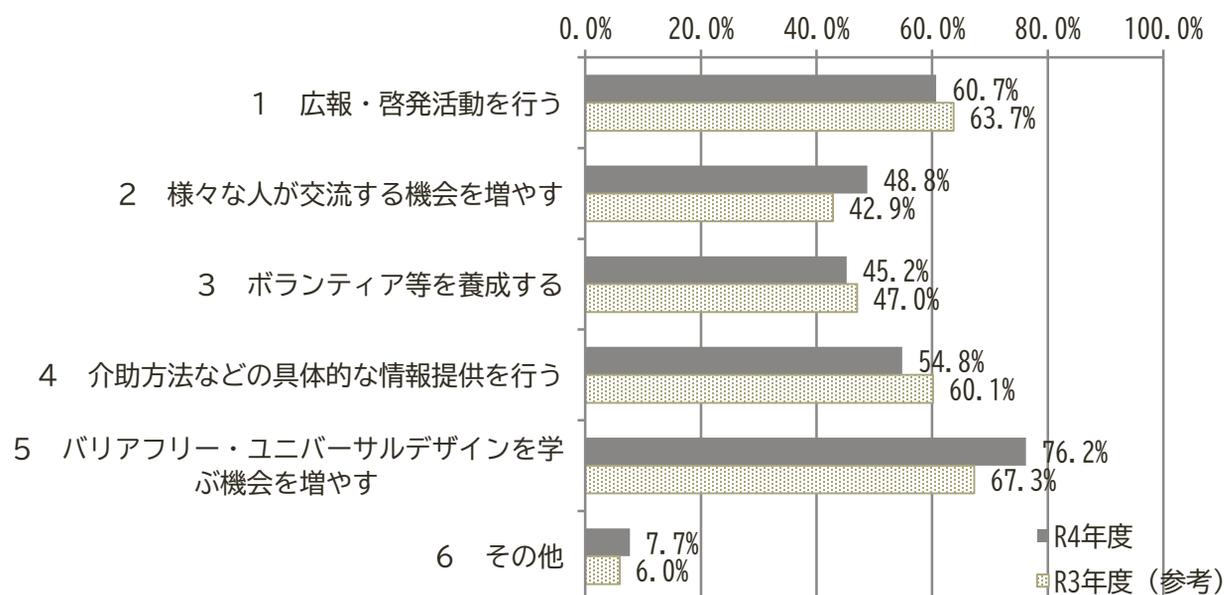
<13その他の内容>

- 都会の JRでは人的余裕が感じられるが地方では難しいと思います。
- 車いす、しょうがい者用の駐車区画が少ないし、普通の人が使っていて平気な顔をしている。やさしい心のない人が多い。主人が最後車イスだったので、いたい程これに関してはいやな思いをあちこちで感じました。
- 車イスのまま、観覧できる文化ホールのスペースが少ない。何台も利用できない。
- 国道の交差点の点字ブロックが剥がれ、道端に寄せられている状態が5年ほど続いている。
- 態度が悪い。具体的には「何で対応しなければならない人が来るの？」という態度

問11-1

「ひとにやさしいまちづくり」では、建物（ハード）や人の対応など（ソフト）だけではなく、様々な人々の立場を理解し、適切な行動を取ることができるよう、人を思いやることのできる心の醸成が大切であると考えられますが、心の醸成を進めるために、どのような取組が必要だと思えますか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和4年度		令和3年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 広報・啓発活動を行う	102	60.7%	107	64.8%
2 様々な人が交流する機会を増やす	82	48.8%	72	43.6%
3 手助けするボランティア等を養成する	76	45.2%	79	47.9%
4 サポートするための介助方法などの具体的な情報提供を行う	92	54.8%	101	61.2%
5 バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす	128	76.2%	113	68.5%
6 その他	13	7.7%	10	6.1%
無回答	1	0.6%	1	0.6%
合計	168		165	



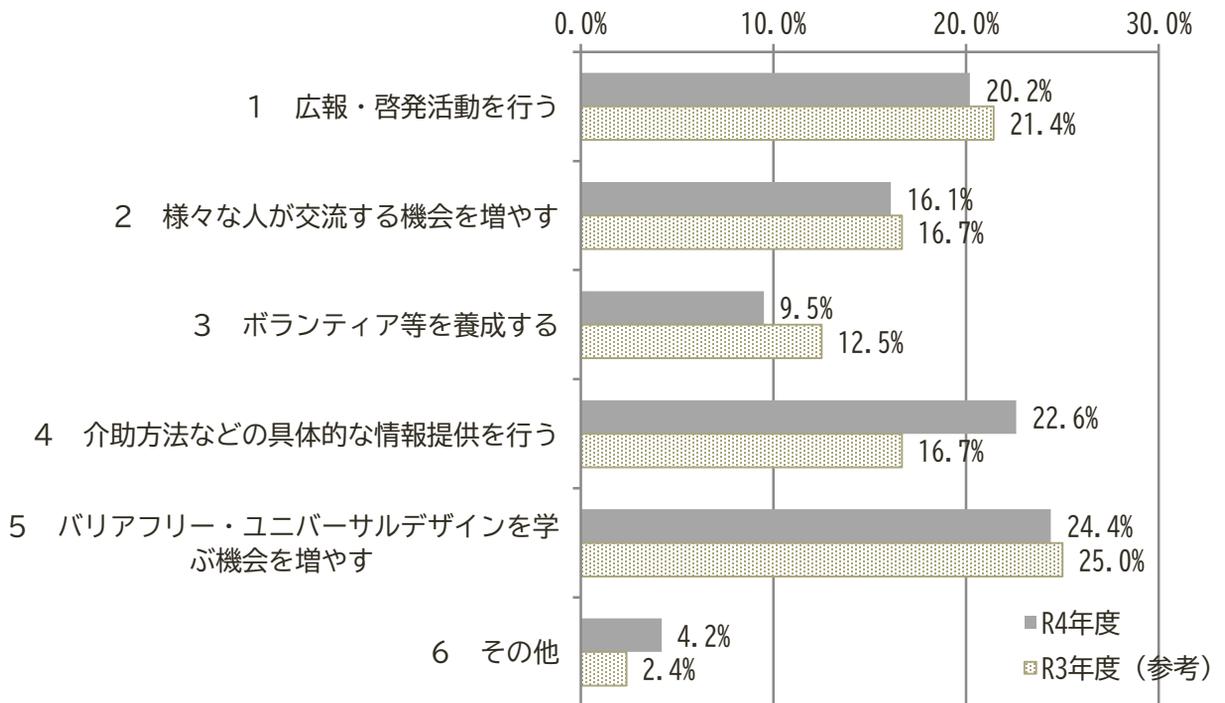
【調査結果】

「バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす」、「広報・啓発活動を行う」、「介助方法などの具体的な情報提供を行う」の順に、回答した方の割合が多い。

問11-2

さらに、その中で最も重要だと思われるものを次の中から1つ選んでください。

	令和4年度		令和3年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 広報・啓発活動を行う	34	20.2%	36	21.8%
2 様々な人が交流する機会を増やす	27	16.1%	28	17.0%
3 手助けするボランティア等を養成する	16	9.5%	21	12.7%
4 サポートするための介助方法などの具体的な情報提供を行う	38	22.6%	28	17.0%
5 バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす	41	24.4%	42	25.5%
6 その他	7	4.2%	4	2.4%
無回答	5	3.0%	6	3.6%
合計	168		165	



【調査結果】

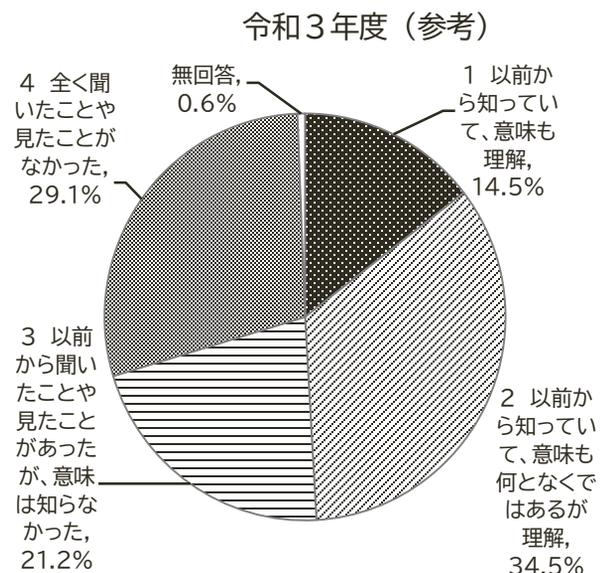
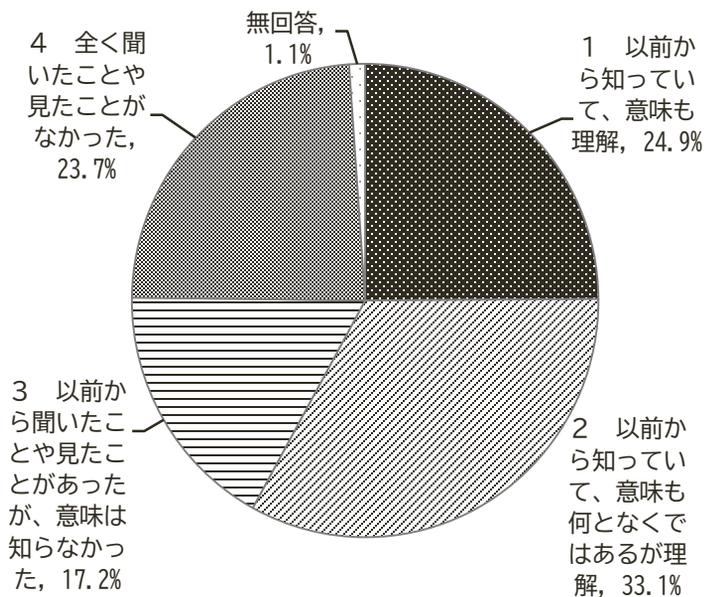
「バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす」が最も多く24.4%となり、次いで、「サポートするための介助方法などの具体的な情報提供を行う」、「広報・啓発活動を行う」の順に、回答した方の割合が多い。

問12

県では、外見からは援助や配慮を必要とすることが分からない方が身に付けることによって、援助や配慮を得られやすくなるよう、「ヘルプマーク」の配付・普及に取り組んでいます。

「ヘルプマーク」について、本アンケートに御協力いただく前は、どの程度知っていましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和4年度		令和3年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 以前から知っていて、マークの意味も理解していた	42	24.9%	24	14.5%
2 以前から知っていて、マークの意味も何となくではあるが理解していた	56	33.1%	57	34.5%
3 以前から聞いたことや見たことがあったが、マークの意味は知らなかった	29	17.2%	35	21.2%
4 全く聞いたことや見たことがなかった	40	23.7%	48	29.1%
無回答	2	1.1%	1	0.6%
合計	169		165	



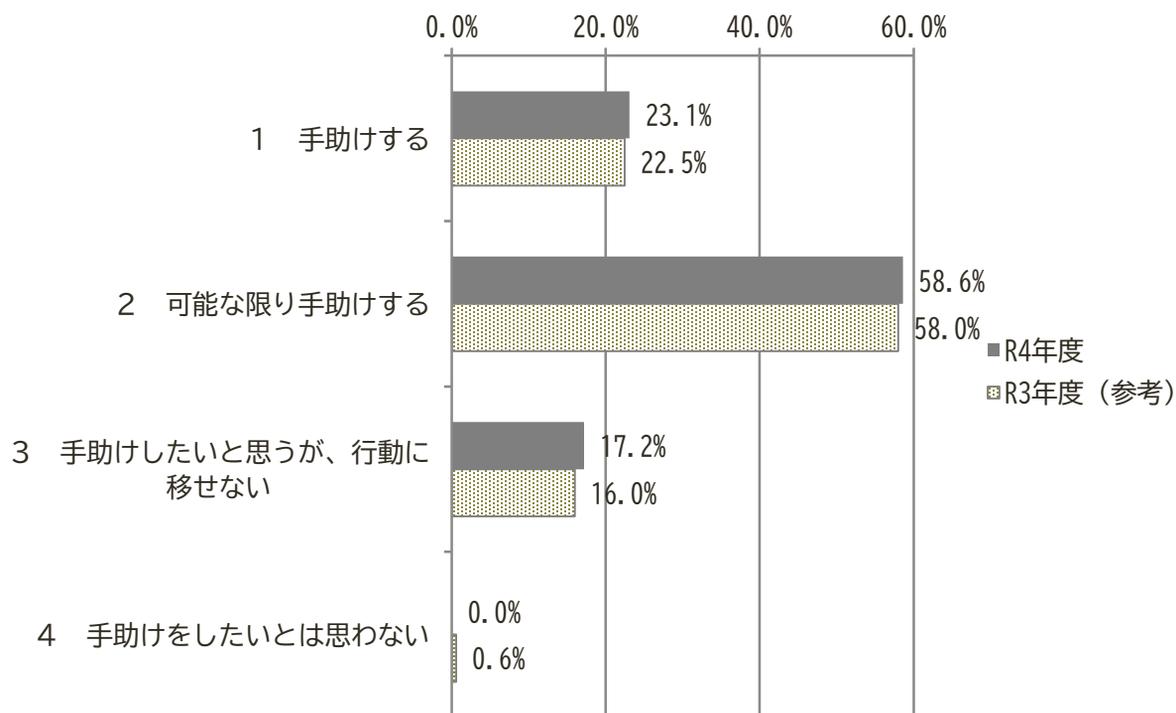
【調査結果】

ヘルプマークの意味を「理解していた」、「何となくではあるが理解していた」と回答をした方の割合は、58.0%となり、令和3年度と比較して9.0%増加した。

問13

あなたは、外出の際、車椅子の方が段差で進めなくなっていたり、視覚障がいのある方が迷っていたり、外国人の方が駅や道で迷っていたりした場合など、困っている様子を見かけた場合、声をかけて手助けをしますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和4年度		令和3年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 手助けする	39	23.1%	38	23.0%
2 可能な限り手助けする	99	58.6%	98	59.4%
3 手助けしたいと思うが、行動に移せない（かもしれない）	29	17.2%	27	16.4%
4 手助けしたいとは思わない	0	0.0%	1	0.6%
無回答	2	1.1%	1	0.6%
合計	169		165	



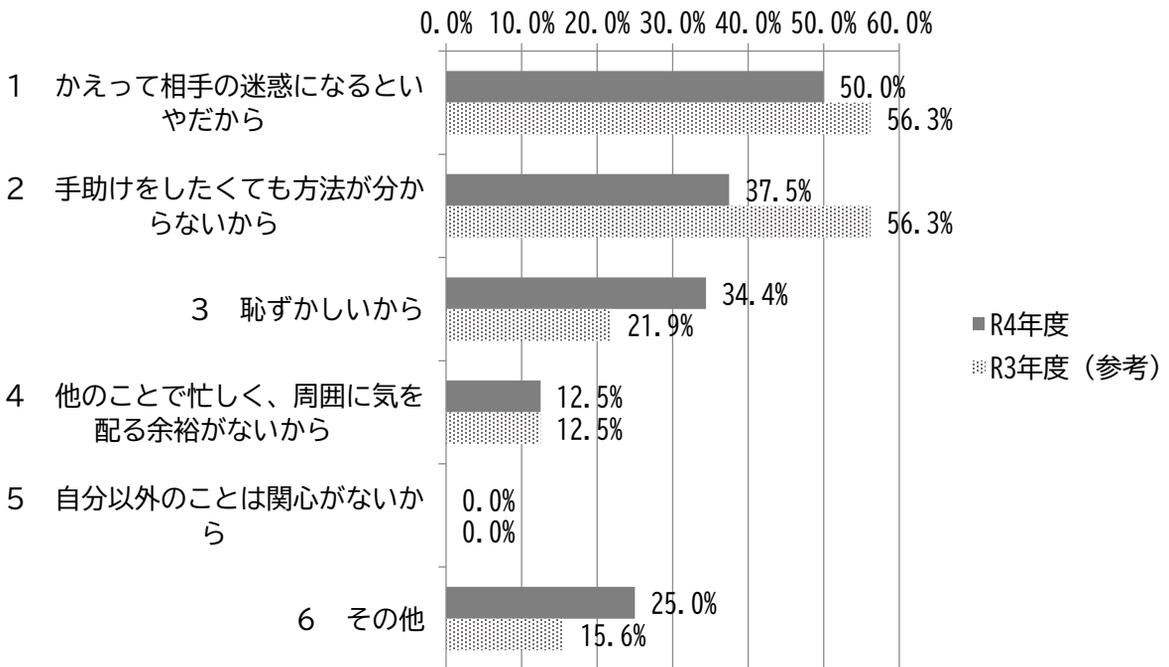
【調査結果】

「手助けをする」、「可能な限り手助けをする」と回答した割合は、81.7%となり、令和3年度と比較して0.7%減少した。

問14

問13で③又は④を選択された方にお聞きします。手助けをしない理由は何ですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和4年度		令和3年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 かえて相手の迷惑になるといやだから	16	50.0%	18	64.3%
2 手助けをしたくても方法が分からないから	12	37.5%	18	64.3%
3 恥ずかしいから	11	34.4%	47	25.0%
4 他のことで忙しく、周囲に気を配る余裕がないから	4	12.5%	4	14.3%
5 自分以外のことは関心がないから	0	0.0%	0	0.0%
6 その他	8	25.0%	5	17.9%
（回答者実数計）	32	-	28	



【調査結果】

「かえて相手の迷惑になるといやだから」と回答した方の割合が50.0%と最も多い。次いで、「手助けをしたくても方法が分からないから」と回答した方の割合が37.5%となった。

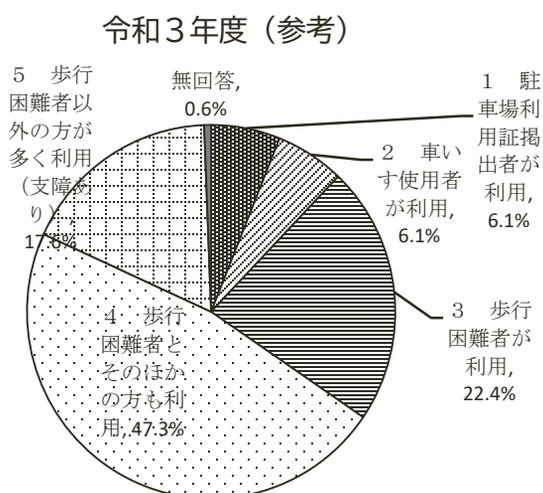
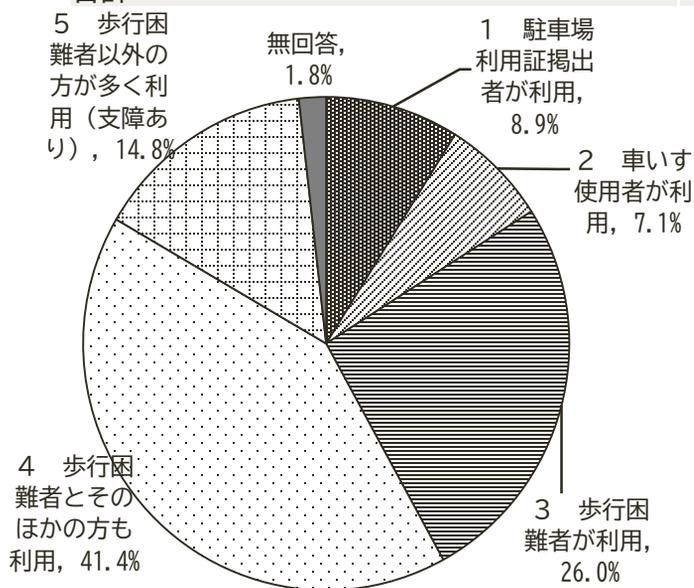
< 6 その他の内容 >

- 手助けするほど自分の体も丈夫でない
- 接触を伴うお手伝いをためらうこの頃です。具体的な手助けの方法たくさん知りその中からできることをやれたらいいのだが。
- 現在はコロナ禍もあり、相手が濃厚接触を避けているのかもしれないので、難しい場面が多いと思う。
- 知らない人から声をかけることが支援を受ける側が恐れを感じないか不安。特に聴覚障がいの方は目からの情報を得られないので、触られることに抵抗があるのでは？とってしまう。
- 以前車椅子の人が困っていたので車椅子を押してあげたら腰痛になった

問15

公共的施設には、車椅子を使用される方や様々な状況で歩行が困難な方向けに「車椅子駐車区画」が設けられています。最近の車椅子駐車区画の一般的な利用状況について、どのように感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和4年度		令和3年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 駐車場利用証掲出者が利用	15	8.9%	10	6.1%
2 車椅子使用者のみが利用	12	7.1%	10	6.1%
3 車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊婦等歩行困難者のみが利用	44	26.0%	37	22.4%
4 車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊婦等歩行困難者とそのほかの方も利用	70	41.4%	78	47.3%
5 車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊婦等歩行困難者以外の方が多く利用（支障あり）	25	14.8%	29	17.6%
無回答	3	1.8%	1	0.6%
合計	169		165	



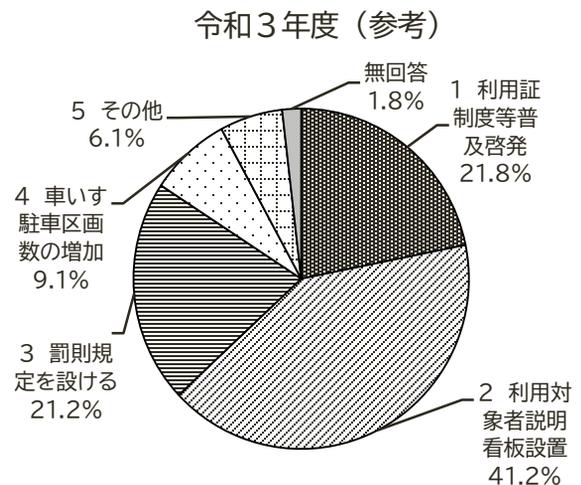
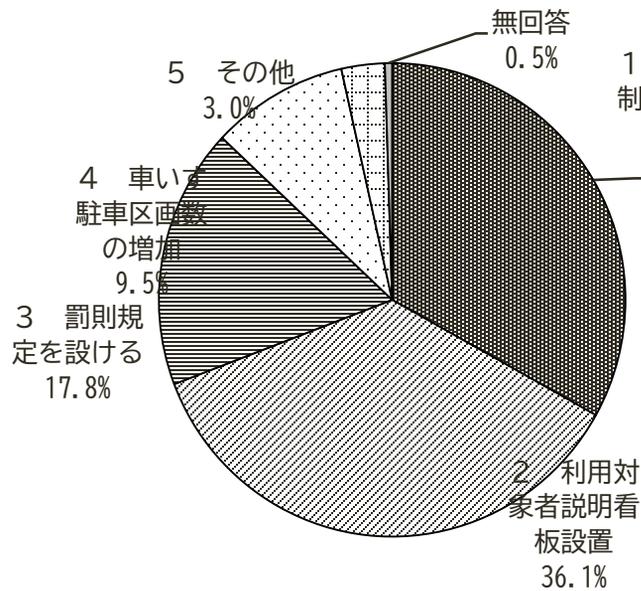
【調査結果】

「歩行困難者以外の方が多く利用（支障あり）」と回答した割合は、2.8%減少したものの、「歩行困難者とそのほかの方も利用」と回答した割合と合わせて、56.2%の方が、歩行困難者以外の方の利用があるとされている。

問16

車椅子駐車区画を車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊婦等歩行困難な方が支障なく利用できるようにするには、どのようにしたら良いと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和4年度		令和3年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 利用証制度等の普及啓発	56	33.1%	36	21.8%
2 利用対象者説明の看板設置	61	36.1%	68	41.2%
3 罰則規定を設ける	30	17.8%	35	21.2%
4 車椅子駐車区画数の増加	16	9.5%	13	7.9%
5 その他	5	3.0%	10	6.1%
無回答	1	0.5%	3	1.8%
合計	169		165	



【調査結果】

令和3年度に引き続き、利用証制度等の普及啓発と、車椅子駐車区画利用対象者の説明看板の設置を求める声が多い。

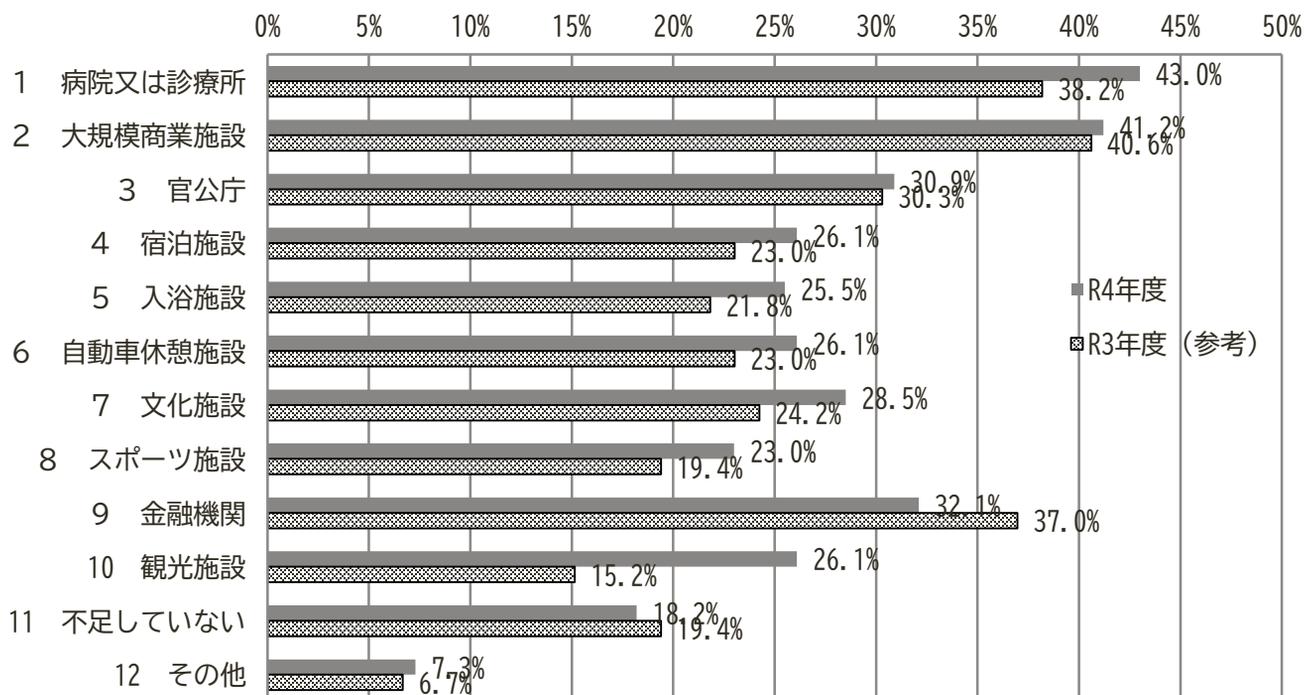
< 5 その他の内容 >

- ナッジ等の手法で、自然とその他の人が使わないようにすることで、その区画が必要ではない人も、本来必要な人も双方が気持ちよく利用できるようになるのではないのでしょうか。
- 車椅子駐車区画の利用資格のない方の利用禁止を大きく表示するか、良心の呵責に訴えるようなフレーズを表示する。
- これはとても難しい問題だと思います。本人のモラルに訴える事しかないと思いますが、もとより、事情がなくても駐車する人はモラルが低いからです。フロントに、許可証を置く事を必ずして頂いて、大変でも、置いていない車両をチェックして、運転手に注意する事が必要ではないかと考えます。しかしながら、これはトラブルに繋がりがねないとも考えられます。テレビやラジオでしょっちゅう呼び掛けたり、寸劇等を流したりする事もいいかもしれません。目立つ大きなポスターを施設の出入り口に貼ったり、チラシを手渡すのもいいかもしれません。
- 必要がない人の利用に対して罰則強化を！
- 表示（マーク）を自分で購入したりできなくする許可を得た人のみ利用出来るよう、本物のマーク（1種類のみ）の導入。

問17

次の施設のうち、車椅子駐車区画が不足していると思う施設を全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和4年度		令和3年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 病院又は診療所	71	43.0%	63	38.2%
2 大規模商業施設	68	41.2%	67	40.6%
3 官公庁	51	30.9%	50	30.3%
4 宿泊施設	43	26.1%	38	23.0%
5 入浴施設	42	25.5%	36	21.8%
6 自動車休憩施設	43	26.1%	38	23.0%
7 文化施設	47	28.5%	40	24.2%
8 スポーツ施設	38	23.0%	32	19.4%
9 金融機関	53	32.1%	61	37.0%
10 観光施設	43	26.1%	25	15.2%
11 不足していない	30	18.2%	32	19.4%
12 その他	12	7.3%	11	6.7%
(回答者実数計)	165		165	



【調査結果】

病院又は診療所と回答した割合が最も多く、4割を超えている。次いで、大規模商業施設、金融機関、官公庁が多くなった。

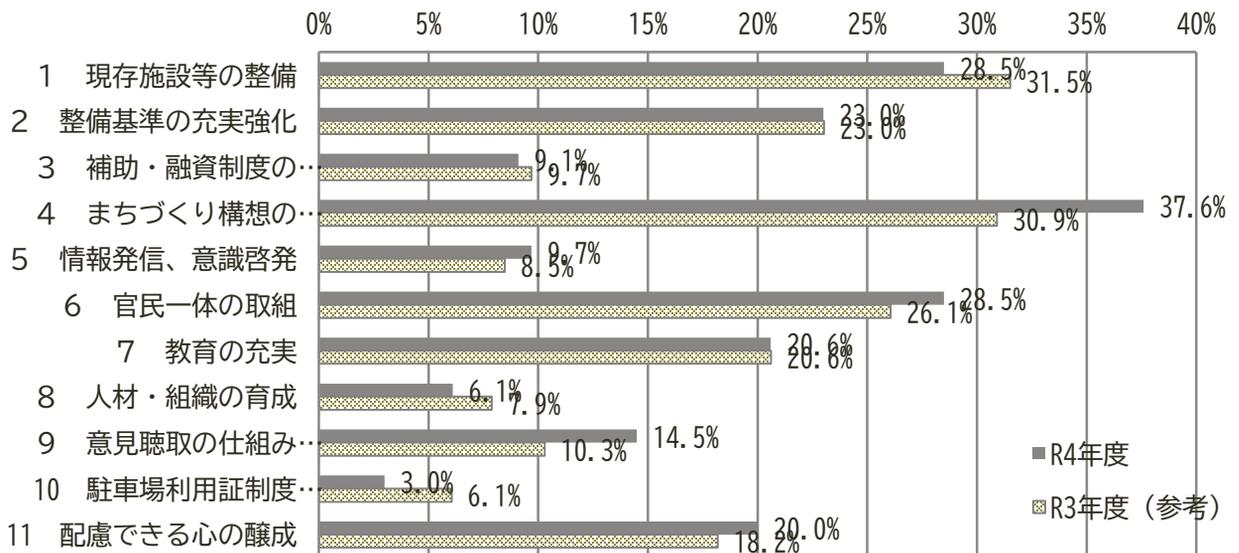
<12その他の内容>

- 高齢者の運転者が多く車おりると杖を杖いている方が多い。障害者用の駐車場ふやさなければならないと思う。
- 利用したい人達に具体的にどこに設置してほしいのかをアンケートなどで聞き取り、設置数を決めてはどうか。
- ありとあらゆるスペース まだまだ不足だ（全体的に）
- 学校

問18

今後、誰もが暮らしやすい「ひとにやさしいまちづくり」を進めていく上で、施策として特に重要だと思うことは何ですか。あてはまるものを2つ選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの）

	令和4年度		令和3年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 現存施設等の整備	47	28.5%	52	31.5%
2 整備基準の充実強化	38	23.0%	38	23.0%
3 補助・融資制度の拡充	15	9.1%	16	9.7%
4 まちづくり構想の推進	62	37.6%	51	30.9%
5 情報発信、意識啓発	16	9.7%	14	8.5%
6 官民一体の取組	47	28.5%	43	26.1%
7 教育の充実	34	20.6%	34	20.6%
8 人材・組織の育成	10	6.1%	13	7.9%
9 意見聴取の仕組みづくり	24	14.5%	17	10.3%
10 ひとにやさしい駐車場利用証制度の普及	5	3.0%	10	6.1%
11 マークの普及をはじめとする配慮できる心の醸成	33	20.0%	30	18.2%
12 無回答	4	2.4%	4	2.4%
（回答者実数計）	165		165	



【調査結果】

「まちづくりの構想の推進」が3割を超えている。令和3年度と比較して、「官民一体の取組」や「意見聴取の仕組みづくり」が増加している一方、「現存施設等の整備」や「人材・組織の育成」が減少している。

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 県外の方から、東北人（岩手県のひと）はやさしいと言われることがあります。大変うれしくなります。取り組みをさらに進めていただきたいと思います。
- 支援が必要な高齢者を家族に持つ身として、「やさしいまちづくり」が進んでいることを実感します。日常生活でも旅行でも、障がい者用の駐車場が整備されていて、貸出用の車椅子を置いて下さっている施設も多くて助かります。要支援で杖を使用している義母が以前は旅行に行きたがらなかったのですが、観光地・ホテルや旅館がハード面でもソフト面でも細かな気遣いをしてくださるので、一緒に気楽に出かけてくれるようになりました。行政の皆さんの取り組みに感謝しています。
- 弱者に対して配慮できる人間教育が必要、道徳教育
- 公共施設のトイレで異性の介助をしなければならない時、多目的トイレの設置がなかったり、少なかったりで困る。
- 私の行動範囲の中では車椅子駐車区画は良く守られていて県民性なのかなあと思う。
- 利用して良い方へ、わかりやすい表示が、わかりやすいよにし、日頃から利用する方の要望を聞くと良いと思う。
- 幼児のころより学びそして親も学ぶ、又、大人も学ぶ
- 高齢者や障害者だけでなく声を上げれない人達にも、介助の利用しやすい環境を作り、参加しやすい雰囲気を持つ団体が必要です。自助・共助に互助・公助の組み合わせのできる継続的な行政の協力機構を考えてもらいたい。また、岩手県全般に言える事ですが交通手段対策が今後、重要な課題であると思います。
- 「人にやさしいまちづくり」は中味が多すぎる。福祉、防災、歴史、環境どれひとつ引くわけにはいかない。私はやさしいまちづくりが一番むずかしいと思います。じゃあなにからかというと、全部同時進行でなければならないと思う。ピラミットの土台作りからはじめ、頂点は安心安全のまちをめざさなければいけないと考えます。

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 問18は私にとってどれもあてはまる様な気がしました。私の母も障がい手帳も持ましたので私がひとり外へでると目が色々といきます。以前よりひとりの時障がい者・妊婦さん・小さいお子さんづれ・お年よりの方私になりにお手伝いしたいです。
- ハード面よりも、まずは思いやりの心で行動することの方が大切。なにに困っているか分からない人も多いので、学びの機会と心の教育ができるようになればいいと思う
- 誰もが暮らしやすい「人にやさしいまちづくり」という事について、改めて考える事ができました。行政と民間の協力なくではいけないし、いつかは自分自身も経験するものとして、意識をもって生活していきたいと思いました。
- どんな人でも年齢を重ねると心身の不調や障害など持つこともあるかと思えます。多様な方が住みやすい岩手県になるよう私も意識していきたいです。
- 広報、啓発活動を分かりやすくしっかりとしてほしい。利用しやすい環境整備を早急に！！
- 「ひと」と一言で言ってもさまざまな人がいる。カテゴライズできない部分のハンディーをどう汲み上げるか、きづけるかが「やさしさ」につながるのだと思う。岩手県ならば、岩手県独自の視点をもって、そのやさしさを追求できるような風潮が生まれたなら、社会はもっとやさしくなるように感じる。
- 各家庭や各事業所等（県全域の）で、「ひとにやさしいまちづくり」の声かけ運動を定期的に行うようにしたらどうでしょうね！「ひとまちの月」などで
- 過疎地域における、高齢者の独居や老夫婦だけの生活で車が無い世帯への交通に関する支援を充実させて欲しいです。（病院の通院等）
- 推進するための具体的行動をしてほしい
- 高齢化が進み、誰もが弱者になる可能性が高い。誰もが自分のこととして考えられるようにもっともっと力を入れてすすめたい。
- 問3に関して、誠に恥ずかしながらすべての取り組みを知りませんでした。

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 交通機関など利用するとき、近所では顔見知りなので声を掛け自分も高齢者なので出来るだけ気軽に困っている人がいたら声を掛けたいと思ってます。
- すべての人が個人として尊重され、自らの意思に基づき自由に行動し、あらゆる分野の活動に参加する機会が確保される地域社会の形成を目指す。
- 障がい者手帳を持つ身内がいます。外出する機会がなかなかなく、外の人と接することもあまりないので、かわいそうに思います。なにか、たのしみを見つけてあげたいです。きっかけと情報がほしいです。
- 私は元気にボランティア活動をしている77才後期高齢者ですが、一概に高齢者がバリア（障壁）感ずるとは限りませんので、高齢者も元気な方、と障害高齢者の方、に区分してはどうかと思います。高齢者扱いされると、何事にも甘えが出てしまい、たちまち元気がなくなり、病気になるように感じています。高齢者の区分を考えて見てはいかがでしょうか。腰の曲がった高齢者の方が、公営住宅とマイヤインター店の間の道路を歩いている姿を見かけることがあります。「ひとにやさしいまちづくり」とは、このような方にどのようによりそうかがと思いますが、1,000mと仮定し500mごとに小さい「まごころ椅子」の設置こそ、今回の趣旨に沿っていると思いますが、どうでしょうか。
- 震災後に作られた高台居住区に住んでいるが、せっかく新規で作った街なのに無電柱化されていない。そういうところから「ひとにやさしいまちづくり」が機能しているように思えない。予算や縦割行政の弊害なのかもしれないが、行政にそこまでやる気があるように思えず、市民に今ひとつ浸透しない要因となっているように感じる。
- 私自身は健康なので障がいを持っている方の変な大変さや不便さを全てわかってあげられないが、理解して手助けしていくことはできると思うので、そのための情報等があれば嬉しいと思う。
- 高齢化が進む中で高齢者の足の確保が大変重要になってくると思います。デマンド交通など生活に直結する交通事情の充実を望みます。

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 私の家族もヘルプマークを利用しています。一見、病気があるようには見えないため、ヘルプマークを付けることに対して、周りの視線を感じてしまい、ヘルプマークを付けなくなってしまった時期がありました。利用する人が周りの目を気にすることなく、遠慮なく利用できるように、周りへの理解を深めてほしい。小学校から、授業に取り入れることが、ひとにやさしくできるところに繋がっていくような気がします。ヘルプマークも東京都でやっているという内容のテレビを見たあとネットで調べ、岩手にもあると知りました。ひとにやさしい駐車場利用証の申請についても、母が要介護になり、病院の駐車場で見かけた事をきっかけに、ケアマネさんに調べて頂き書類を頂きました。自分たちで何とか情報を調べて制度を知ることは全ての人ができるとは限りません。もっと、身近に知ることができ、ひとにやさしい駐車場については手続きが簡易的になってほしいと思います。ヘルプマークについては情報を得てから、保健所ですぐ受けとることができたのは有り難かったです。ヘルプマークについて、もっと理解してもらえたらありがたいです。
- バリアフリーと言うけど、外に出れば小さな町ではほとんど無理。バリアだらけ。間に合わせに作ったような建物へのスロープ。狭いトイレ。公共施設だけでも基準を厳しくして、案内板を作成してもらえれば、利用する人は助かると思います。
- 教育での啓発活動を多くし、障がいのある方へ配慮を行える社会を作っていく土台をつくっていった方がよいと思います。
- 岩手県の「車社会」意識から「車、公共乗物、徒歩」へのシフトが必要。役所の方から率先して下さい。
- 設備は変更していけば良いが心のバリアフリーが難しいと思います。実際の場面で戸惑ってしまいそうですし、どうして貰いたいのかを知る機会があると良いと思います。啓蒙活動だけでなく、参加型のイベントがあると良いと思います。

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- まずは、歩道の整備です。でこぼこだったり段差があったり、点字ブロックが壊れていたり、様々な問題点があります。若い頃には気付かなかった事ですが、点字ブロックは、実はとても歩きづらいです！担当の方は、目隠しして歩いてみた事はあるのでしょうか。でこぼこ過ぎて、年配者は転びそうになる事があります。しかも、壊れ易くて、先につながっていない事も多々あります。
- 盛岡駅には、車椅子の方用のエレベーターがありますが、とても分かりにくい、奥の方にあります。利用者にやさしくないです。設置すればいいのではなく、利用しやすくなければ意味がありません。必要としている方が、すぐにわかる場所に設置、または、案内をしてほしいです。
- バスを利用するにも、バス停が段差があったり、歩道が狭かったりで、車イスの方には課題が多すぎます。これから、雪の季節になると尚更です。歩道の除雪も、しっかりとやってほしいです。点字ブロックも隠されてしまいます。
- まだまだ、歩行困難な方の暮らしやすい街とは程遠い気がします。
- 担当の方が実際に見て歩いて、検証して頂きたいです。
- ひとにやさしいまちづくりのためには、県・市町村・地域・民間事業者の協力は欠かせないものであると考えています。数年後には団塊の世代が75歳を迎えます。官民一体となって、県民誰もが暮らしやすいまちづくりが急務と考えています。
- 介助ボランティア（一般）店舗で身体の不自由な方が車イスを利用する時、気軽に「お手伝いしましょうか」と声をかけれる様に。一時のボランティア。
- 「ひとにやさしいまちづくり」は従来のバリアフリーの観点から平成13年2月から、全ての人にやさしいユニバーサルデザインの考え方を取り入れたものに全面的に見直されたが、21年が経過し、県のまちづくりの推進に活かされ障害者、高齢者、幼児など全ての人が暮らしやすい街になってきているのを感じています。

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 一人ひとりの意識を変えるところから取り組む必要があると感じます
- 私も先日ヘルプマークを持たせて頂きましたが、市役所の方々にさえヘルプマークを知らなかった。ショックです。使う人が知って、助けてと発信しても健常者の方々が知らないでは意味がない！！悔しいし情けなかった。
- 選択肢の中にもありましたが、罰則等よりも、一人一人の意識改革が必要だとかんがえます。
- 車椅子駐車区画を利用している車両で、どう見ても車椅子利用者、身障者、高齢者などでない人が100均等で売っているステッカーを掲示して駐車しているようなモラルの欠けていると思われる者をたまに目にします。
- 今回のアンケートで色々知る事ができて良かった。ヘルプマークの人が困っているような場合、できる限り声をかけようと思います。
- 部分部分では活動を行っている印象はあるが、果たして自分がそのような状況になった時に不便なく過ごせるかと言われれば、不便な事が多く浮き彫りになると思う。どのような人にも平等に過ごせる街を作るのは、とても難しいが今後新しく作る場合は徹底的に、今ある施設は出来るだけ快適にするにはどうすれば良いかを考える必要があると思う。
- 駐車場の「車椅子・高齢者・障がい者」用のマークが経年劣化の為不鮮明な所があります。そのような場所をはっきりわかるように早目に改修する為に公共で補助をする。
- ユニバーサルデザインからさらにインクルーシブデザインを取り入れていただけると全国でもまだあまり事例のないことができるかなと思います。また、自分自身ヘルプマーク所持者なのでまだまだ認知されていないなあという印象を強く持つので徹底した認知度向上の施策をうって欲しいです。

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 車椅子駐車区画を「高齢者」が使用できるとは知りませんでした。むしろ岩手県は高齢者が多いので、皆使用したがつて、車椅子の方が使用できなくなってしまうのではないのでしょうか。使用できる人を「ステッカー」を貼っている車のみにして、それにセンサーとつけて、それ以外の人が入ると音がなったり、罰金を後で請求されたりすると使用しないと思います。そのことをTVCM等で流す、とか。盛南地区は道路、歩道に雑草が多すぎる、10年前に引っ越してきてからずーっと思っていました。盛岡は歩いて楽しむ町ではないのか？
- もっと理解と関心が高まるよう、県民への広報・啓発活動を多くした方がいいと思います。
- 障害のある方が近所に引越して来た。まわりの方は「何となくこわい」と言って近づかない。障害についての理解、知識が不足している。私は支援学校に勤めていた経験から少しは理解し、会話する様に努めている。
- だれもが安心して暮らせるように理解と関心を高める活動が必要だと思った。手を差しのべるのも勇気がある事だけど、そういう人が増えていく岩手県であってほしいです。
- 本気で目指すなら、20年以上が必要である。学校教育で小さい時からでないとなかなか難しい。大人を変えるのは難しい。
- 一般的に、どこの場所でもどの場面でも、暮らしやすい生活ができていると思う。その中でも困った方がいた場合、その方に必要な手助けはしたいと思います。
- 歩行における困難をかかえてる方にばかり重きをおいてるが、聴覚や知的に困難をかかえてる方にも寄り添う必要があるのではないか。
- 日本政府が掲げた「SDGsアクションプラン2020」と関連づけて、県民向けにPRしてはいかがでしょうか。
- 観光資源、特に歴史的建造物に対してのユニバーサルデザインの導入は慎重に行うべきだと思う。極力当時のままで保存しておきたいと思うため。
- 学校での教育もだいじだと思います。

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- どんなに立派な施設があっても、高齢者等地域住民が参加したい、色々な企画を考えていただいても参加者が少なく施設が有効活用されていないとするならば、「何故なんだろう？どのような企画なら地域の方が集まり、憩いの場となる空間になるんだろう」と、官民一体で考える機会がもっともっと必要で、それが高齢者の引きこもりを防ぎ 活気ある町づくりになり 人にやさしい街に繋がる事だと思えます。痛切に感じています。急務な問題で、お金をかけなくてもできる問題であると思えます。
- 今迄住民の要望、意向が十分に反映されずにまちづくりが行われてきたと思うが、有識者のみならず広く意見を聞き取り、多少時間がかかってもいいからプランを練っていくべき。またイベント等がある時は交通弱者用に送迎する対策を整え、なるべく多くの住民が参加できる体制をとる事が重要課題の一つになるのではないのでしょうか。
- 道路のデコボコ歩道のブロックそり上がっていて、つまづいてころんだ。
- 道路（歩道も含む）に穴やでこぼこ、段差が多すぎて危ないと思えます。バスの出入口の段差がつらいので、ノンステップバスが増えるといいと思えます。バスの運転手さんも不親切な人が多いので、どうにかしてほしいです。道路の除雪もしっかりしてほしい。
- 秋田市は「エイジフレンドリーシティ」として、取り組みを新聞広告に出しているのを見たことがある。英語だけど、ぱっと一目で分かりやすい。「ひとにやさしい」という表現は何となくぼんやりとした感じで、どこまでやさしくすれば良いのか今一つピンとこない。
- 障害者が、車を置く所に、健常者がおいてる。
- ヘルプの仕方をテレビ等で教えてほしいと思う。
- 移動交通にトラムを導入して車を少なくしてほしい。
- 県立遠野病院の障害者用駐車はスペースを広く取ってあり利用するに不便さがない

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 見た目ではわかりませんが精神障害と関節疾患の持病があり、長期にわたって療養が必要なケガ(脚)もしたため3年ほどヘルプマークを着けていますが、席を譲ってくれた人は3年間で1人だけです。それどころか明らかに元気なお年寄りから席を譲るように迫られました。今回の質問項目としても目に見える車椅子等使用の身体障害が主であり、精神障害、発達障害、知的障害、内部障害など見た目ではわからない障害のある方にとって住みやすい街づくりはあまり考慮されていないと思います。目に見える障害も理解が進んでいるとは言えませんが、目に見えない障害はそれ以上に県民だけでなく行政もはっきり言って理解が不足していると思っています。市役所やハローワーク、病院や障害者施設で明らかに子供扱いしてくる職員は多いです。それによってお金さえあればこんな酷い県は出ていくのに、と思った事も一度や二度ではありません。そしてそれは私だけが思っている事ではないのでしょうか。病気や障害は特別ではなく誰にでも起こり得る事でいつ自分や家族がそうなっても不思議ではない事をもっと周知してほしいし、病気や障害があっても特別扱いではなく同じ人間だと思って接して欲しいです。そのうえで障害者や病気のある人達などの意見を聞いて、街づくりを進めていただければと思います。先に書いたヘルプマークを着けていた際に席を譲ってくれた1人は高校生でした。今の若者には周りを思いやる精神が根付き始めていると思いますし、それは教育の成果だと思います。この先の未来ある子ども達にもそうした教育が行われることを願います。
- あらゆる機会に県民一人ひとりに訴える努力が必要だと思います。決して他人事と思わせない様に！
- 自分がまだ働けるしあまい外に出かける事も少ないので（職業柄）マークを目にする事が少ないかも
- 「ひとにやさしいまちづくり」といってもあまり実感がわきません。「困っている人がいれば助けてあげる」を普通に出来る様になれることが一番だと思います。声をかけれるかどうか？

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 現在妊娠中で入院するほど悪阻がひどく、2歳児を自宅保育しています。今回3回目の妊娠にして、初めてひとにやさしい駐車場の利用(申請)ができることを知り、利用させていただいてます。今まで知るタイミングがなく、友達や家族にも車にある利用証明カードをみて「こんなのあるんだね！すごい！」と言われるのでまだまだ知らない人はいると思います。実際私も車椅子マークに駐車してカードを提示していますがまわりの人は不思議そうにこちらを見ているときはあります。まずは少しでも多くの人に『ひとにやさしい…』について理解してほしいのと、妊娠中の利用(体調が良くない)ことも知ってもらえたらうれしいです。
- 高齢者や障害者が不便と感じる難い環境・施設は、若者や健常者には気づきにくいと思うので、不便と感じた時に意見要望を申し出ることができるような窓口が必要と思います。しかし、高齢者等は、いろいろ不便を感じても行政に遠慮して自分の意見を行政に申し出る人が少ないと思います。自分も孫を連れて、乳母車(ベビーカー)で近所を散歩して改善点を感じたことがあります。車道の十字路では、歩道から車道を横切ることになりますが、車道と歩道に境に1cm程度の段差があり、1cm程度の段差でも乳母車が引っ掛かります。しかし、乳母車を使用する期間は長くないので、行政に改善を申し出ても予算の関係もあるし、直すのに数年かかると思うとあえて自分が要望する必要もないと考えています。行政側から積極的に高齢者等に尋ねる体制が必要と考えます。ただし、行政から意見要望を求める場合であっても、予算の制限があるので、改善には時間を要する必要があることを事前に説明する必要があると思います。申出たにも改善されないといった不満が発生することは、行政の本意ではないと思いますので。

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 親が歩くのが不自由になっても、シルバーカーで何とか歩けても、道路や観光地、スーパーやお店、飲食店で、行きたくても、あきらめなければならず、かわいそうでした。できる限り、連れて行きましたが、九戸城の桜をみたくても、坂道でむずかしくなり、残念そうで、かわいそうでした。近くの桜を見れる所をさがし、見せてあげましたが、とても残念。年をとることの悲しさを感じました。お年よりや障害者の身になって、すすめてほしいです。あきらめている方がたくさんいると思います。桜は、九戸城の他、川原橋も文化会館もすべて、年寄りにはきびしい場所です。改善策をお願いしたい。他の観光地も工夫してほしいです。
- 比較的新しい公共的施設（ハード面）はバリアフリー化は構築されていますが反面、県内にはまだまだ古い公共的施設、建造物が多いのが現状です、当然一部バリアフリー化なるも、段差解消、エレベータ未設置、トイレ不足、案内表示の不足未設置等々多くあるので現状把握調査、改善が必要に思われます。やさしいまちづくり（ソフト面）では具体的事象に基づいて記述します、エレベータ未設置、市公共施設2F会議室に車椅子で来館出席されました、会場スタッフ2人で車椅子ごと階段を上ろうとしましたが大変な様なので、施設臨時職員が手助けに入ろうとしました所、施設の職員（指定管理責任者）は手助け、介助は不要、事故があった場合責任問題になる、手助けしないでくださいとの事・・・人を思いやる、人としてどうなのか（ひとにやさしいまちづくり）・・・疑問が生じた。以上これは一例の照会でした、極論を記載すると公共施設利用来館時は階段昇降時の手助け、介助は出来ません等表示しては？（不評を飼うでしょう）、結論は利用者に思いやりを持った公共施設の運用（運営）をお願いしたいものです。以上